

Ecological Network

生態系 ネットワーク 財政支援 制度集

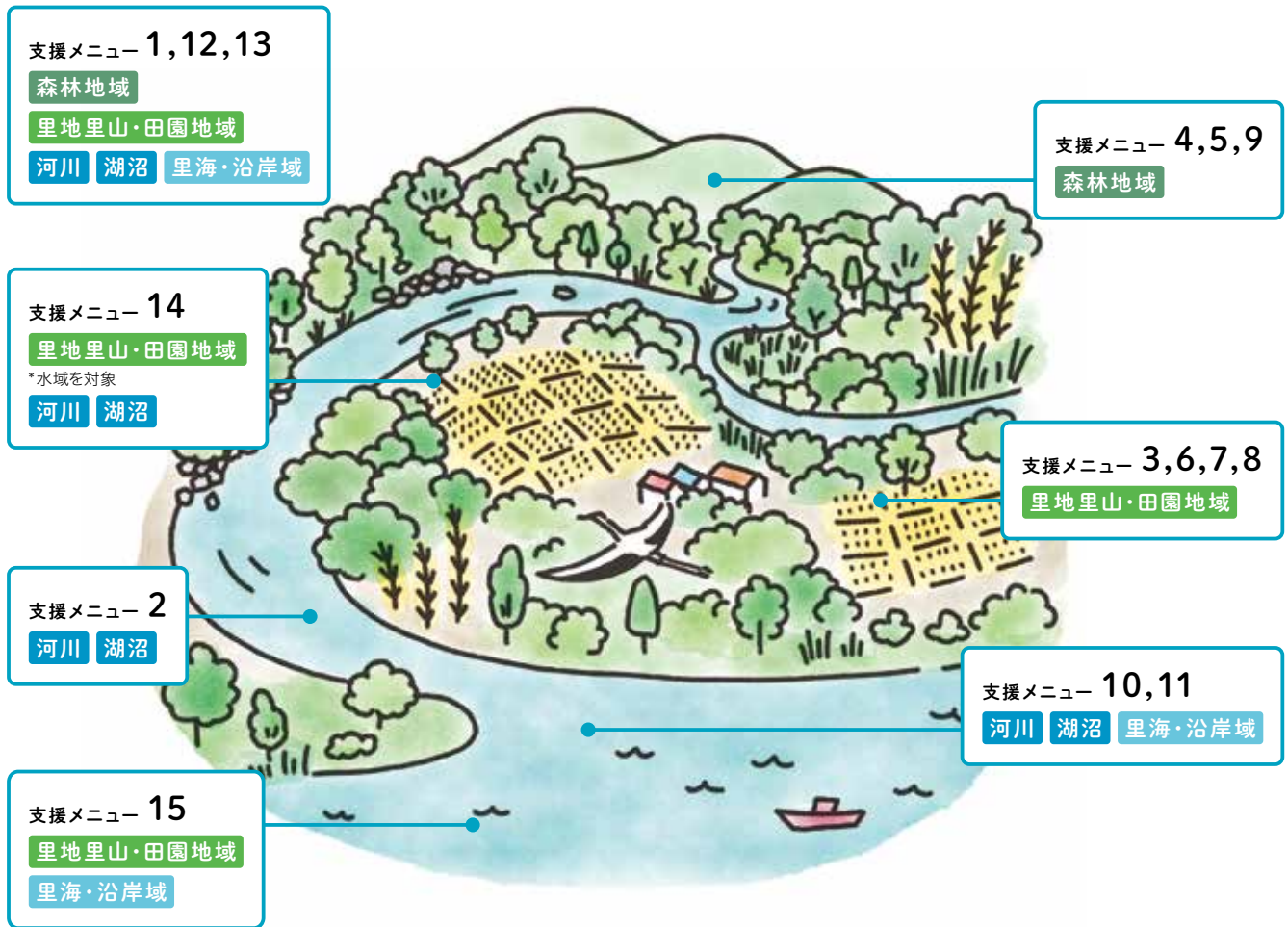
川・森・農地・海の
自然をつないで
地域を豊かに



国土交通省 農林水産省 環境省

本パンフレットの作成趣旨

このパンフレットは、国土交通省・農林水産省・環境省の支援制度のうち、15の制度を紹介しています。全国各地で生態系ネットワークの形成に取り組まれている皆様の活動に際して役立つものとなれば幸いです。



生態系ネットワークとは

生態系ネットワークとは、生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組です。

川・森・農地・海の自然のつながりは、国土レベルでの生態系ネットワークの基軸であり、その形成には関係する機関・団体等が積極的に連携して取り組む必要があります。

生態系ネットワークは、地域の自然環境を豊かにするとともに、地域振興や経済活性化につながるものとして期待されています。



写真：(公財)日本生態系協会

1 生物多様性保全推進交付金

—生物多様性保全推進支援事業—

支援メニュー

概要 生態系ネットワークの構築等を図り、自然共生社会づくりを推進する

交付対象事業・取組 地域における生物多様性の保全再生に資する活動

(1)生物多様性増進活動基盤整備(①地域生物多様性増進法に基づく計画の作成等の取組 ②同法に基づく地域生物多様性増進活動支援センターの設置等の取組) (2)生物多様性増進活動実施強化 (3)重要生物多様性保護地域等保全再生 (4)国内希少野生動植物種生息域外保全 (5)国内希少野生動植物種生息域内保全 (6)里山未来拠点形成支援

交付対象 (1)①地方公共団体、民間団体、研究機関等 ②地方公共団体等 (2)地域生物多様性増進法に基づく計画の活動主体等 (3)地域生物多様性協議会 (4)動植物園等 (5)地方公共団体、民間団体、研究機関等 (6)里山未来拠点協議会 **国費率** (1)①②1/2以内 (2)定額 (3)1/2以内 (4)定額 (5)定額 (6)1/2以内 **対象地域** (1)①②全地域 (2)地域生物多様性増進法に基づく計画の実施区域 (3)国定公園、国指定鳥獣保護区、ラムサール条約湿地、自然再生事業実施計画区域等 (4)全地域 (5)全地域 (6)重要里地里山、都道府県指定鳥獣保護区等

募集 4～5月頃(執行団体により公募) **問合せ先** 環境省自然環境局自然環境計画課地域ネイチャーポジティブ推進室(03-5521-8343) **URL** <https://www.env.go.jp/nature/biodic/hozen/index.html>

活用事例

地域 兵庫県豊岡市

団体名 豊岡里地里山・人・未来協議会 **年度** 2021(R3)～2022(R4)

豊岡市では、市・地域が協働し湿地や里山の保全を行っており、コウノトリが増えている①。一方で、担い手の減少等が課題となっている。そこで、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」や周辺里地里山での保全活動②や、「森のようちえん」を開設し、親子参加型体験クラス③、自然保育に係る人材育成、竹伐採④等を実施している。自然を利活用し、地域の自然の保全と経済が活性化する仕組みの構築を図るとともに、担い手の育成・確保につなげていきたい。

活動団体の声

多くの人に様々な形で里地里山に親しむ機会を提供することで、保全意識の醸成につなげるとともに、地域の賑わいを創出しています。

地域 福井県あわら市

団体名 北潟湖自然再生協議会 **年度** 2021(R3)～2022(R4)

あわら市では、北潟湖自然再生事業実施計画に基づき、北潟湖の底質、底生生物、有機汚濁状況調査や汚濁物質・富栄養化関連物質の発生負荷状況の分析⑤、ピオトープ管理⑥、ウシガエル等の外来種駆除、湿原での環境教育の場としての利活用整備や観察会⑦、エコ・グリーンツアーのルート試行やマップ作成等⑧を実施しており、地域の様々な主体と協働した自然再生活動の継続を図っている。

活動団体の声

各種調査を地域住民を巻き込んで実施することで、協議会の周知等に役立てることができた。北潟湖を地域の宝として保全再生していきたい。



① コウノトリ



② 保全活動



③ 親子参加型体験



④ 竹伐採体験



⑤ 有機汚濁状況調査



⑥ ピオトープ管理



⑦ 湿地観察会



⑧ エコツーリズム

2 社会資本整備総合交付金

— 統合河川環境整備事業等 —

支援メニュー

概要 良好な河川環境を保全・復元及び創出することを目的に、自然環境が著しく阻害されている河川の自然環境の再生等を行う

交付対象事業・取組 魚類の遡上・降下環境の改善、河川の自然環境の改善

交付対象 都道府県（指定区間内の一級河川、二級河川） **国費率** 1/3等
対象地域 全地域

要件 ○横断工作物により河川等が分断され、魚類の遡上・降下が困難な区域*において、魚道の整備を行う事業 ○自然環境の保全・復元を必要とする区域*についての河道整備、湿地再生等 *区域には、特定都市河川浸水被害対策法に基づく貯留機能保全区域を含む

募集 4月に国から都道府県に予算を交付 **問合せ先** 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課(03-5253-8447) **URL** https://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000213.html

活用事例

地域 岐阜県下呂市（木曾川水系竹原川）

事業主体名 岐阜県 **年度** 2016(H28)

過去からの出水により河床が低下し、岩盤が露出して河川環境が変化していた箇所①、河床の復元と瀬や淵の復活を目指し、自然石の石組みによる分散型落差工を施工した②。コンクリートを使用しない石組み工法を採用したことにより、石と石の間に生物が生息できる環境ができ、また、1段当たりの落差を小さくしたことで、イワナやアマゴ等の魚類が遡上可能となった。工法の検討や生物調査等を地元住民との協働により実施している③④⑤。

事業主体の声

砂や礫が堆積し、魚類や底生生物にとって良好な生息環境が形成されていると感じる。今後も生物調査を続けていきたい。

地域 新潟県佐渡市（国府川水系国府川他）

事業主体名 新潟県 **年度** 2005(H17)～2030(R12)予定

休耕田や三面張り水路が残る箇所⑥で、トキの採餌環境や水生生物の生息環境の保全・再生・創出を図るための湿地の創出等を行っている⑦。地域では、協議会を中心とした地域の意見交換や学生ボランティアによるビオトープ整備体験等が行われており、企業も資金面での支援を行うなど、連携した取組によりトキの採餌環境の整備を図っている⑧⑨⑩。

事業主体の声

決められた形を作るのではなく、地域の声や専門家からの知見、モニタリングの結果等を現場にフィードバックし、周辺環境と調和を図りながら順応的に整備を進めている。今回の整備効果を検証し、今後の環境事業に活かしていきたい。

*直轄については、総合水系環境整備事業の支援があります。



① 整備前



② 整備後



⑥ 整備前



⑧ トキ



3 工法検討会



4 魚類調査



5 魚類調査



7 整備後



9 地域住民との意見交換



10 ビオトープ整備

こうした取組にも活用可能

魚の産卵や成育の場となり、増水した時には魚の避難場所ともなるワンドづくり



出典:「河川用語集」(国総研水害研究室)を一部加工



ワンド 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所

河川と水路・水田等の水域の連続性を回復し、魚類がこの間を行き来できるようにするための樋管*前面の段差の解消等

*排水路などが堤防を横断して川へ流れ込む場合に、堤防の中をトンネルのように通り抜ける水路



整備前



整備後

樋管前面の段差の解消

国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所